



十小だより

令和 7 年 9 月 3 0 日
第 6 号
府中市立府中第十小学校

見てもらえることで頑張れる 運動会の取組を通して

校長 草刈 あずさ

長い夏も終わりが見えてきて、ようやく秋めいてきました。秋の日はつるべ落としとはよく言ったもので、9月以降、一気に夕方の時間帯が短くなってきました。夕方の遊びや習い事からの帰りの道、交通事故、不審者などに十分気を付けて、安全に過ごしてほしいと思います。

さて、「〇〇の秋」はたくさんありますが、府中十小では、「スポーツの秋」。運動会の取組が佳境を迎えています。運動会に向けては、主に表現の練習に時間を割いています。まずは動きや音楽を覚える、よりよく表現するために工夫する、隊形の場所を覚える、周りと合わせる、更に友達と教え合うなど、様々なステップを踏んで当日を迎えます。このようなステップを乗り越える原動力は、自己実現と周りからの称賛だと思います。「うまくなった」「やっていて楽しい」という自己実現の楽しさにも増して、「家族に見てもらえる」「他の子や先生から褒められた」という体験や期待がモチベーションにつながり、一人一人のがんばる姿になっています。がんばって練習しているのは、そういうモチベーションによるものですが、本当に暑い日が続く中でも、よくがんばっています。運動会の一週間前になると、先生たちの気合も高まり、時には「やらされている」思いになることもあるかもしれませんが、子どもたちは、自分のためだと分かって乗り越えている姿をととても素晴らしいと思います。

一方で、こういった高め合う雰囲気を苦手とする子どももたくさんいます。やりたい気持ち、やらなくてはならないという義務感、でもやれない気持ちを行き来しながら、その時にできることに取り組んでいます。そういう子どもたちにも、よく考えて、悩んで取り組んだねと褒めてあげたいと思います。

様々な思いを抱えて、運動会当日を迎えます。全員が各自の全力を尽くせるよう、応援しています。保護者、地域の皆様も、どうぞ応援をよろしくお願いいたします。

